

100 世界遺産の旅 (123)

ハワイ火山国立公園

2020年と2021年の夏は、コロナ禍で、ハワイアンソングを歌うことも、ウクレレを奏でることも出来ず、空しく過ぎ去ってしまった。それでと云う訳ではないが、ハワイアンミュージックを聴きながら、ハワイにある世界遺産の旅を回想してみた。

1987年、USAのハワイ島にあるハワイ火山国立公園が、自然区分の世界遺産に登録された。



マウナ・ケア山 (4205m) ハワイ島、2009年2月

2009年2月にオアフ島のホノルルを訪れた時、足を延ばして、ホノルルより飛行機で東方へ50分のところにあるハワイ島ヒロ空港を目指した。

着陸前に見えるのが、ハワイ諸島最高峰のマウナ・ケア山で、空気が澄み、晴天率が高いことから世界で最も天体観測に適しているらしい。年に数回雪が降り、今回の訪問時も冠雪を見ることが出来た。

ヒロ空港に着陸後、迎いのミニバンに乗り換え、まず訪れたのがハワイアンソングで有名な「アカカの滝」である。鬱蒼としたジャングルの中、130mの落差を誇り、ハワイで最も美しい滝である。その後、溶岩でできた空洞のサーストーン溶岩トンネルに立ち寄って、ハイライトのキラウエア火山に向った。



ハレマウマウ火口、キラウエア火山、2009年2月

ハワイ島の火山は、今も活発に活動している。爆発を起こす事はまれで、通常は、粘性の低い溶岩が流れ出して、アスファルトが吹きこぼれるように、周囲を滑らかに覆いながら、なだらかな山稜を形成する。マウナ・ケア山もそうであるが、このような形状は、楯を伏せたように見えるため、楯状火山と呼ばれる。

日本にも、楯状火山（月山、八幡平）はあるが、成層火山（富士山、桜島）や鐘状火山（昭和新山、普賢岳）の方が日本的と云えるだろう。



キラウエア火山より海岸への溶岩道、2009年2月

溶岩が流れる地域では、建物に被害が及ぶ前に避難を余儀なくさせられる。今回も焼け出された家々の一部が、多く放置されていた。

我々は、溶岩が太平洋へ流れ出す「海のホース」を観察するため海岸へ向った。溶岩の表面は黒色で冷え切ったように見えていても、内部は真っ赤な溶岩が流れている場合があるので、溶岩道に付けられている黄色の歩行誘導マークを遵守し、それから外れてはならなかった。



溶岩流出による水蒸気、ハワイ島、2009年2月

残念ながら、海への溶岩流出は、水蒸気が赤く染まることでしか確認できなかった。真っ赤な溶岩の流出を確実に観るには海上からのアプローチしかないので、次回訪問時の楽しみとして、夕暮れにオアフ島のホノルルへ帰着した。